

『ふたなり大悪魔様は欲求不満！』

声の出演：紅月ことね

音声編集：蒼月音

シナリオ：Arech (アーチ)

イラスト：小夏チハ

制作：オーガソフト



【0 可愛い獲物みいつけた♪】

……人間界に来たのはいったい何年振りでしょうか。

少なくとも、大悪魔という今の地位に着いてからは一度も来たことが無かったはずです。

この風、この匂い……懐かしいですね。

淫魔として人間の男たちを墮落させていたのが、遠い昔のように感じられます。

……ふう、私ったら、いったい何をしているのでしょうかね。

今の私は数多くの淫魔を束ねる立場。

人間界に来て郷愁にひたっている暇などないというのに……いえ、郷愁にひたるところか、まさかかつてのように淫魔として男を墮としたいと考えているなんて……魔が差したと言う他ありません。

こんな気分になってしまったのは、きっとあの子の……シャロのせいです。

あの子ったら、淫魔として精力的に活動するのはいいのですが、いくらなんでも責めすぎて男たちを次々壊してしまうなんてやりすぎです。

そんな横暴なやり方では、まだまだ淫魔として半人前。

だから彼女には罰として二度もオナ禁を命じているのに……全く反省しないばかりか、いつの間にか気に入った男をオナ禁明け専用オナホールにしているなんて……！

……オナ禁明け専用オナホールなんて、そんなの贅沢すぎですっ。

しかも、オナ禁の解除を告げた私に対して、今からオナ禁明け専用オナホールを犯してくる、などと自慢するように言ってきたりして……！

……ずるい。ずるいずるいずるい。シャロだけずるいですっ。

いいえ、シャロだけではありません。他の淫魔の子たちもずるいですっ！

私はこの立場のせいであの子たちに振り回されてばかりで、プライベートな時間が無いどころか、搾精任務すらできないのにつ。

あの子たちは毎日自分好みの男たちを好き放題責めているなんて……！

……こんなのもう我慢できません！

私も自分だけのメスイキオナホールが欲しいですっ。

このふたなりチンポで男のお尻を犯して、メスに墮としたい……！

長年溜まった欲求不満ザーメンを男の尻穴に注ぎ込みたい……！

くっっ、んっ……も、もう我慢の限界です……こうなれば、部下の淫魔たちに自慢できるような、可愛くて愛らしい私だけのメスイキオナホールを見つけてみせます。
……………しかし、大悪魔という地位に登りつめた私のふたなりチンポに耐えられる方など、今の人間界にいるのでしょうか……。

あら……うふふ、なんてことでしょう。

まさかこんな簡単に、メスイキオナホの素質がある方を発見できるなんて……これは悪魔の導きと言うべきでしょうか。

私の久しぶりの獲物は……アナニーにふける、あなたに決定しました。

【1 私のオナホールになりなさい】

突然失礼いたします。私はアリーヤ。大悪魔、アリーヤです。

あら、驚きのあまり声も出ませんか？

ふふ、それも当然ですね。

まさかアナニー中、今まさに絶頂しようとするタイミングで、悪魔がやってくるなんて思いもしませんよね。

……ふふ、夢中でアナニーをしていたのに、邪魔をして申し訳ありません。

それで……ぶしつけなのですが、あなたに一つ、お願いがあるのです。

よろしければ、私専用のオナホールとしてあなたの一生を捧げてくれませんか？

もし私専用オナホールになってくれれば、それはもう大切にあなたのことを使わせていただきますよ。

んふっ……私のふたなりチンポを見てください。

うふふ、この大きくてカリが広がったチンポで、そのアナルをかき回されてみたくありませんか？

私だけのオナホールになってくれるのでしたら、あなたをこの大悪魔チンポにふさわしい、最高のメスイキオナホールに開発してあげますよ。

アナルだけでなく、首筋やうなじ、乳首や脇腹、それにふとももや足先まで、あなたという存在全て、その心までメスの物へと作り変えてあげます。

想像してみなさい。

私に体の隅々を弄られて、徐々に徐々に自分がメスへと変化していくところを。

乳首をこねくり回されて、まるで女の子のようにぷっくりと膨れてしまったり、首筋に息を吹きかけられるだけで全身が痺れるような刺激を感じたり、私の手が足を這い回って、撫でられるもどかしさで気が狂いそうになったり……そして、ひくひくと蠢くアナルにふたなりチンポをねじ込まれて、腸壁のひだ一つ一つをふたなりチンポでゆっくりとねぶられていく……私のチンポが時折前立腺をこつんと突き上げると、吐き気にも似た倒錯的な快楽が一瞬で脳を焼きつくし、溶けだした快楽の蜜が体を犯していくのです。

……想像しただけで体が震えてきたでしょう？

ふふ、でもそれはしょせん、毎日アナニーに明け暮れているあなたの想像でしかありません。

想像には限界というものがあります。

私を与える快楽は、あなたの想像をはるかに上回っているのですよ。

あなたは知らないでしょう？

ふたなりチンポでお尻の穴を犯される気持ちよさを。

男である自分がゆっくりとメスへと変えられて、男のプライドというものが碎け散る破滅的な快楽を……ふふ。

あなたが望むなら、あなたの想像できない快楽を私を与えてあげます。

その代わり、これからのあなたの人生は全て私の物。

あなたの一生は、私専用オナホールとして幕を閉じるのです。

これから感じるはずだったあなたの様々な感情、あなたの未来、可能性。

その全てを塵あくたへと変えて、刹那的な快楽を一生の物とする。

そう、あなたが今感じている通り、これは悪魔の誘惑です。

己の自尊心を、これまでの記憶を、明日への希望を……あなたの過去と未来、価値ある生涯全てを捨てて得られるのは、一匹のメスへと生まれ変わる権利だけ。

……割に合わない取引だと思うでしょう？

それでもいいのなら、ゆっくりと頷いてみなさい。

その頷く瞬間があなたの全て。あなたの人生の終わり。

だからゆっくりと、これまでの人生を思い返して……これからオナホとして過ごす自分の姿を想像しながら、頷くのです。

さあ、頷いてみなさい。

……そう、ゆっくり、ゆっくり……ふふ……ちゃぁんと頷けましたね。いい子です。

では、契約の印にキスをしましょう。

さあ、目をつぶって……。

ん……ちゅ、ちゅぷ、ちゅるる、ん……ちゅる、……はぁ。

これであなたはもう私の物。後悔しても、遅いですよ？

【2 最後のアナニーを愉しんで】

これからあなたは私の大悪魔チンポでしかイケないメスの体になります。

つまり、あなたが大好きなアナニーでは、もう二度とイケなくなるということです。

……しかし、最後のアナニーが絶頂に達してない中途半端なものでは、あなたも未練が残ってしまいますよね？

ですから、最後のアナニーを楽しませてあげましょう。

私が見ていてあげますから、人生最後のアナニーを晒してみなさい。

これが最後のアナニーになるのですから、思い残すことが無いようにしなさいね。

あなたは……指でするのがお好みなのですね。

ふふ、指でするのなら、そこにあるローションを使うのでしょうか？

そのローションを指にまぶして、粘ついた指先でアナルをじっくりとかき回してオナニーをしていたのでしょうか？

では、いつものようにローションを指にまぶしてみなさい。

遠慮せずにたっぷり塗って滑りを良くした方が、きっと気持ちいいはずですよ。

……ふふ、準備はできましたか？

では、仰向けになってM字開脚のように足を広げ、私にその可愛いお尻の穴を見せなさい。

そう、お尻の穴を見せつけるようにして、自分でアナルを弄っていくのです。

さあ、始めてみなさい。可愛いアナルに指先で触れて……いやらしく弄っていくのです。

ふふ、まずは肛門の周辺をマッサージするように押しつけていくのですね。

……アナニーにハマっていただけあって、手慣れた手つきですね。

まだ少ししか弄ってないのにアナルがひくひくと蠢いて、更なる刺激を求めているみたいです。

思えば絶頂寸前のアナルでしたから、もう指を迎え入れられる準備ができていたのかしら。

ふふ。アナルに指を入れても大丈夫だと思うのでしたら……入れてみなさい。

そう、私に見せつけるように、指をアナルの中にゆっくり入れていくのです。

小さい穴をこじ開けるように、指先を小刻みに動かしながら、ゆっくり、ゆっくり……んふ……入って行ってますね。

アナルの中に指先がめり込んでいくところ、しっかりと見えていますよ。

ああ、指先を咥えこんでいるアナルがひくひくと蠢いて……とてもおいしそうです。

さあ、早く続きを見せてみなさい。

あなたも絶頂寸前で寸止めされたアナルを指でかき回したいのでしょうか？

私の視線を意識しながら、アナニーで絶頂してみなさい。

んふ、指を動かし始めましたね。

アナルに入れられた指が、入り口付近の腸壁を擦りあげるようにぐにぐにと動いています。

ああ、今度は指先で円を描くようにして、アナルの浅い部分を刺激していますね。

んふっ、仰向けになってアナルに指を入れているあなたの姿……とても情けなくていやらしいです。

なのにあなたは今の自分の姿を恥じるどころか、アナニーで気持ちよくなってしまっているのですね。

あら、アナルの中をかき回すような動きから、ピストン運動のような動きに変わってきましたね。

アナルの深い部分まで指を入れて抜き差しするなんて、やはりアナニーに慣れているんですね。

肛門がすぼんで、抜き差しされる指をしっかり締め付けているのが分かります。

ああ、なんていやらしいアナルなのでしょう。

自らアナニーを繰り返してこんないやらしいアナルに育て上げるなんて、罪深い方ですね。

あら、段々と息が荒くなってきましたね。

もしかして、もうイってしまいそうなのですか？

もともと絶頂寸前だったからすぐにイきそうになってしまうのか、それともあなたのアナルがいやらしすぎるからすぐにイってしまうのか……ふふ、いったいどちらなのでしょうね。それにしても、そんなに息を荒げてアナルに指を抜き差ししていると、まるで私に見せつけているみたいです。

もしかして本当は、アナルを弄っている自分の姿を他人に見て欲しかったのではないですか？

自分のペニスには目も向けずに、お尻の穴をひたすら弄って絶頂してしまう。

そんな恥ずかしい姿をさらけ出したかったのでしょうか？

私がこうして見ていますから、思う存分さらけ出してみなさい。

アナルを弄って感じている姿を視姦されながら、最後のアナニー絶頂を迎えるのです。

さあ、イってみなさい。

指を激しく動かして、いやらしい絶頂姿を私に見せてごらんなさい。

そう、そうです。絶頂へ向けて指でアナルをかき回し、可愛い声を出しながらイきなさいつ。

んっ……ああ……今イっているのですね。

ビクビクと体を震わせて、アナルの快感で絶頂を迎えている姿、ちゃんと見ていますよ。

それがアナニーで味わう最後の絶頂です。

最後の最後まで、しっかりと絶頂の快感を噛みしめなさい。

【3 女より雌らしい身体へ】

……人生最後のアナニーは存分に楽しめたようですね。

絶頂するアナルをひくつかせながら激しく息を上げて、精魂尽き果てたという様子ですが…
…ここからは私の時間です。

そのまま仰向けでじっとしていなさい。

今から馬乗りになって、この体にこれからは私がご主人様だと教え込んであげますから。

んっ……うふふ、悪魔に馬乗りされる気分はいかがですか？

こうしていると、触れ合う肌や体温、そして視界にうつるこの大悪魔チンポから、私の存在をはっきりと感じられるでしょう？

絶頂で夢うつつになっているあなたの頭もそろそろ冷めてきたようですし、今からあなたを私だけのメスに騎けます。

覚悟はいいですか？

……うふ。その前に、まずはご褒美をあげましょう。

先ほどのアナニーは素敵でしたよ。

ひたむきにアナル絶頂に向かうその姿……とても愉快でした。

私を楽しませてくれたご褒美に、頭を撫でてあげます。

ふふ、いい子いい子……私は評価するべきところはきちんと評価いたします。

ですからあなたも、私のメスイキオナホとして心から私に尽くしなさい。

それが私専用のメス穴になるための心構えと言ったところですね。

従順で素直な可愛いメスイキオナホになれば、毎日こうして頭を撫でてあげてもいいですよ。

いえ、撫でるのは頭だけではありません。顔や耳も……こうして、触れてあげます。

唇を指先でそっとなぞったり……耳に指を這わせたり……ふふ。

顔や耳に触れられるとくすぐったいのですか？ 敏感なのですね。

では、この首筋に触ったりしたらどんな反応をするのでしょうか。

首筋に触れますよ……んっ、ふう……うふふ、首筋に触れたとたん、体がビクンと跳ねましたね。くすぐったいのですか？

この首筋も立派な性感帯に開発してあげますので、楽しみにしててください。

今はまだくすぐったい首筋も、そのうち触るだけで内またまで痺れるくらい感じてしまうようになりますから。

でも、それはこれから先のお楽しみ。

まずはあなたの体を、はっきりと分かりやすくメスの物にしないといけません。

自分がメスへと変化している……開発されてそう自覚しやすい部分はいったいどこだと思えますか？

正解はここ。乳首、です。

小さい乳輪に柔らかい乳頭がツンと立った、男の方の乳首……この乳首を、女の子以上に感じてしまうメスの乳首へと変えていきますからね。

例えばこんな風に……指先で触れて、くるくると円を描いて刺激したり。

つまんで引っ張ったり、こりこりとこねたり……ふふ、たったこれだけの刺激で背中がゾクゾクと震えてくるでしょう？

これをこれから毎日繰り返し、ゆっくりと確実にメスの体にしていきます。

そのうち私よりも大きく肥大した乳首になり、乳首をこね回されるだけで絶頂するようになるでしょう。

その時が楽しみですね。

もちろん乳首や首筋などの上半身だけでなく、下半身もしっかり開発してあげますから、安心してください。

では、今から下半身を愛撫しますよ。ふふ……本番はこれからです。

【4 アナニー人生へさよならを】

まずは内またから触ってあげます。

さあ、私が触りやすいように軽く足を開いてみなさい。

……ふふ、よくできました。素直な子は好きですよ。

そうやって足を開くと、恥ずかしいところが丸見えです。

オチンチンや玉袋も全て丸見えで、とても情けなくていやらしい姿です。

私に命令されたらそんな情けない姿でも構わないなんて、そろそろ私のメスイキオナホになるという自覚が出来てきたようですね。

では、先ほど言った通り、内またを触っていきますよ。

んっ……うふふ。意外と内またはすべすべですね。

肌がきめ細やかで、触っていてとても心地がいいです。

この股の付け根の部分……鼠蹊部にも触ってあげましょう。

ん……はあ、ん……鼠蹊部を撫でられたとたん、足がわずかに動きましたね。

ふふ、思わず反応してしまったのですか？ それだけここが敏感だという証拠ですね。

もっと鼠蹊部や恥ずかしい部分を触ってあげますよ。

指でゆっくりなぞって……玉裏に手を潜りこませて擦ったり……ああ、そんなに小刻みに足を動かしたりして……そのような可愛い反応をされたら、もっと虐めたくくなります。

例えばこのように、片手で鼠蹊部を撫でながら、もう片方の手でオチンチンをつまみ上げたりして……んっ。

ふっ、うふふっ。オチンチンをつままれたとたん、腰をそらしましたね。

アナニーばかりしているのに、オチンチンは人並みに感じるのですね。

こんな立派なオチンチンがあるというのに、あろうことかアナルへの快感に目覚めてしまい、オチンチンの刺激よりもアナニーにはまってしまう。

ふふ、倒錯していると言う他ありませんね。

でも、それは私も同じ。

私はオマンコよりも、このふたなりチンポで男を征服する快感に取り憑かれているのです。

このふたなりチンポで男の方のアナルを犯し、屈服させ、メスオナホへと堕としていく。

その背徳的な快感は、悪魔である私すらも魅了するのです。

互いに普通にセックスができる体でありながら、その真逆に魅力を感じてしまう。

その歪さが……たまらないのです。うふふふ。

ああ、ほら、私の指があなたのアナルに触れ始めましたよ。

目をつぶって自分のお尻の穴に意識を集中してみなさい。

先ほどアナニーでイってしまった恥ずかしい尻穴に指先が触れて……ゆっくりと、まるで舐めまわすようにアナルの周囲を這いまわっているでしょう。

指の腹でアナルの周りをくると撫で上げて……ほら、ほぐされた肛門の入口にじわじわと向かっていきます。

ふふ、アナニー後のぬるぬるアナルだから、少し力を入れただけで指が飲みこまれそうですね。

このまま指を入れて欲しいですか？

私の細くしなやかな指でアナルを虐められたいのでしょうか？

言葉は要りません。

私の指をこの恥ずかしいアナルに入れて欲しいのなら、頷いてみなさい。

……ふふ、素直に頷きましたね。偉いですよ。

ではあなたの望み通り、ぬるぬるアナルに指を入れてあげます。

さあ、息をゆっくりと吐きなさい。

……いきますよ。

んっ……！（はあっ、ああ、指がアナルの中に入っていきます……）。

指先からゆっくり入って……あ、今第一関節のところまで入りましたよ。

ああ、先ほどのアナニーで絶頂してしまったアナルの中、とてもぬるぬるで熱いですね。

発情してトロトロになった尻穴は、まるでオマンコのようにです。

ふふ、アナルが指先をきゅうっと締め付けてきて、おねだりを始めました。

もっとお尻の奥まで入れて欲しい。

指の根本までねじ込まれて、ぐちゅぐちゅとかき回されたい。前立腺を責められたい。

あなたのそんな思いが、可愛いアナルの感触から伝わってきますよ。

しかし……まだ奥には入れてあげません。

私のような豊満で女性らしい大悪魔に全く敵わず、為すすべもなくじわじわメス穴アナルを征服されていく。

その屈辱と快楽の狭間を、もう少し味わいなさい。

ふふ……ほおら、私の指がアナルからずるずると抜けていきますよ。

んっ、んふっ、んんっ……ほら、抜けてしまいました。

指を抜いた後は……また、ゆっくり入れていきます。

さあ、ちゃんと意識しなさい。私の指がアナルの中に入っていて……んっ、また抜けていく……アナルの中に指を入れて……また、ゆっくりと抜いて……ふふ、時折抜く時に指を折り曲げ、アナルの入口を擦りあげたりもして。

ん……あは……はあ……ん……んっ、んんっ……欲しい刺激を与えられずに違う刺激を与えられるというのは、どんな気分ですか？

もどかしくて気が狂いそうでしょう？ 前立腺を刺激して欲しくて悶えるでしょう？

そうやって悶えている間に、あなたのアナルはゆっくりと私の色に染まりつつあるのですよ。

ほら、指を抜く時はアナルがきつく締め付けてきて、入れる時は力が緩まって私の指を飲みこんでいきます。

本当は前立腺を刺激して気持ちよくして欲しいのに、いつの間にかアナルはご主人様である私を第一に考えている。

ふふ、自分で開発したアナルが徐々に私の物になっていく感覚はいかがですか？

これからあなたのアナルは、もっと私色に染まっていくのです。

このふたなりチンポをねじこまれて、こつこつと前立腺を突き上げられたり、太いカリ首で腸壁をずるずると擦りあげられたりして、可愛い声を出して絶頂を繰り返していく。

伊っても伊ってもふたなりチンポの動きは止まらず、アナルを執拗に突かれまくるのです。

その時の気持ちよさ、少しだけ体験させてあげましょう。

こうして指で前立腺を押すと……ふふっ、腰がびくんと跳ねあがりましたね。

私のふたなりチンポをハメられたら、こんな風に前立腺を刺激されるのです。

前立腺を軽く掠めるように刺激されたり……んっ……時には、優しく押し上げられたり。

ふふ、前立腺を刺激されたとたん、甘い声を出し始めましたね。

私の指で前立腺をこね回されると、たまらないでしょう？

自分で弄る時とは比べ物にならないくらい気持ちいいはずですよ。

ふふ、これがメスへと墮とされていく感覚……お尻の中を指が好き勝手かき回し、前立腺までもこねられ、自分の意思とは無関係に気持ちよくさせられる。

ほおら、また前立腺を刺激しますよ。指を奥まで入れて……ふふ。

前立腺を指でゆっくり押し上げますからね。

んっ……ふうっ、こうして押し上げたまま、じわじわと擦りあげると……くす、快感の余りお尻が左右に揺れてますよ。

もっとしてくださいと私に媚びているのですか？

んふ、まるで尻尾を振る子犬のようで可愛らしいです。

そろそろ私のふたなりチンポを、このいやらしいお尻マンコに入れてあげてもいいかもしれません。

しかしその前に……最後の誓いをしなさい。

これまでアナニーばかりしてきた人生に別れを告げ、これから私のメスイキオナホールとして生きていく。

その別れと誓いを込めて、私のふたなりチンポにキスをするのです。

いえ、あなた自らそうおねだりしなければいけません。

自分の意思で言うことによって、あなたの心に残った最後の枷が砕け散り、何の憂いもなくメスイキオナホールに生まれ変わることができるのです。

さあ、まずは私のチンポに顔を近づけなさい。

そう、あなたの熱い息がかかるほど近くまで、ゆっくりと顔を寄せるのです。

ん……ああ、チンポにあなたの吐息を感じます。

そのまま私のチンポを見つめて、誓いの言葉を言ってごらんなさい。

どうか、ご主人様のチンポに愛しいキスをさせてください、と。

さあ、もう一度私の言葉を聞いて、復唱するのです。

どうか、ご主人様のチンポに愛しいキスをさせてください。

……ふふ、よく言えましたね。

それではあなたの望み通り、キスをしていいですよ。

その唇でしっかりと口づけ、舌を絡めながら想いを込めて吸い付きなさい。

ん、あはあ……ん……いいですよ。唇と舌の刺激で、私のふたなりチンポも喜んでいます。
メスイキオナホになりたいというあなたの想い、確かに受け止めました。

【5 浅く焦らして】

では、今から私のふたなりチンポで完璧なメスイキオナホールへと墮としてあげます。

快樂という名の深い深淵の底に、共に沈みましょう。

まずはふたなりチンポを露出して……んっ、くふ。

私のチンポはいかがですか？

このカリ高凶悪チンポが、今からあなたのお尻をほじくっていくのですよ。

うふふ、楽しみでしょう？

さあ、四つん這いになって私にお尻を向けなさい。

そう、いいですよ。そのまま自分の手で尻肉を左右に広げ、アナルを見せつけてみなさい。

ふふ……丸見えになったアナルがひくひくと動いて、ふたなりチンポを今か今かと待ち受けていますね。

そのアナルに、私のふたなりチンポをあてがってあげましょう。

ん……ほら、尻穴にふたなりチンポの先端が当てられていますよ。

チンポの先端の感触とその熱が、アナルで感じられるでしょう？

このチンポを今からゆっくりと入れて、まずはアナルの浅い部分を味わってあげます。

さあ、入れますよ。アナルで私のチンポを感じなさい。

んふ、あ……あ、ああ……チンポがゆっくりアナルに飲みこまれていきます。

亀頭の先端から……ゆっくりと、広がったカリ首まで……んっ。

はあ、まずはここ、カリの部分までです。

あなたはすぐにでもチンポを全部飲みこみたいのでしょうけど、じっくりゆっくりと味わわせていただきます。

ふふ、だって、こんなおいしそうなアナルを簡単に墮としてはつまらないですから。

じわじわと私専用のチンポ穴にして、楽しませていただきますね。

ん、くう、ふ……ほら、チンポが抜けていきますよ。

カリ首までハマっていたチンポが、アナルからずるずる抜けていって……ふうっ。

ふふ、チンポが全部抜けてしまいました。

ああ、チンポが抜けたとたん、アナルが名残惜しそうにくぱくぱと蠢き始めましたね。

そんな風にアナルでいやらしくおねだりしなくても、すぐにチンポを入れ直してあげますよ。

ほら、チンポの先っぽが、また入っていく……んんっ、はぁっ、今度はチンポの半分くらいまで入れますからね……んんっ！

は、あああ……あなたのアナルが強く締め付けてきます。

先ほどチンポを一度抜いたからか、もう抜いて欲しくないのアナルが懇願しているみたいですね。

ふふ、こんな風に可愛く甘えられると、ついイジワルしたくなりますね。

ほおら、チンポがまた抜けていきますよ……カリ首で腸壁のひだをずるずる巻き込みながらゆっくりゆっくり……ああ、もうすぐ抜けてしまいます……なあんてね。

抜けそうなところで、一気に奥まで……！ んっ、くうっ！

あああ……一気にチンポを根本までねじ込んだら、痛いくらいに締め付けてきました。

熱々の腸壁もうねり始めて、私のチンポに絡みついてきます。

うふふふっ、チンポを全部咥えこんだことで、アナルが完全に発情したようですね。

んっ、いいですよ。私から動かなくてもアナルが絡みついてきて心地よいです。

しばらく動かずにこのままでも構いませんが……ふふ、あんまり焦らしすぎるのも良くないですね。

ゆっくりとしたピストンでこのケツ穴を楽しむとしますか。

んふう……んんっ、ゆっくり抜いて、すぐに奥まで突き入れて……はぁあ。

激しく動いて犯すのもいいですが、こうしてゆったりとピストンして、じっくりケツ穴を味わうというのも良いものなのですよ。

こうしていると、アナルが敏感に反応しているのが全て分かりますからね。

んっ……んふう、くっ……んはぁ、んっ、ん、ぁ……ああ、あなたの尻穴、とてもたまりません。

トロトロのケツマンコの熱で、私のふたなりチンポが溶けてしまいそうです。

んふふ、いけませんね。つつい尻穴ばかり楽しんでしまっていました。

あなたの体の全てが私専用のメスイキオナホなので、アナル以外も可愛がってあげましょう。

ここ、背中とかはいかがでしょうか。

指先で背中中のラインをつつ、となぞったり、フェザータッチで曲線を描くように撫でたりすると……ゾクゾクと体が震えて気持ちいいでしょう？

お尻も……アナルだけでなく、この柔らかい尻たぶを揉み上げて……んふ、んっ。

アナルの中もお尻も背中も、全身あますことなく可愛がってあげますよ。

んふ……あああっ、あっ……あは、んっ……んふう、んはあ、あうんっ……。

……あら、こんなゆっくりとしたピストンだというのに、あなたのオチンチンからじわじわとザーメンが漏れ出しています。

これはいわゆる、ところてんと言う状態ですね。

まだ本格的に責めていないというのにもうところてんを迎えるなんて、さすがは私専用のメスイキオナホールです。

スケベなお尻マンコの具合もとてもよくて、素晴らしいですよ。

あなたは私が思っていた以上にメスイキオナホールとしての素質をもっているようですね。

ふふ、改めて気に入りました。

そんなあなたに、一つ教えなければいけないことがあります。

その前に、まずはチンポを引き抜いて……んっ、んんんっ！

ああ……っ、引き抜こうとした瞬間アナルの締め付けが強まりました。

可愛いアナルが私のチンポを必死で引き留めようとしています……うふふふふふっ。

あ、はあん、ほら、ずるずる抜けていってしまいますよ。

チンポを抜いて欲しくなければ、もっとアナルを締め付けないと……ん、んっ、あっ、はあっ……んふふ、チンポが全部抜けてしまいました。残念でしたね。

安心なさい。あなたが望むならまたすぐにでもチンポを入れてあげます。

ただその前に……先ほども言いましたが、あなたに一つ教えなければいけないことがあります。

次、私がこのチンポをあなたのアナルに入れた時は、射精するまで絶対に抜いたりしません。

このアナルに、私の熱々ザーメンを一滴残らず注ぎ込むつもりです。

私の……大悪魔の超濃厚ザーメンを注ぎ込まれたらどうなるか、知っていますか？

うふ、ザーメンを注ぎ込まれた瞬間このアナルの感度は大幅に増幅され、連続脳イキしてしまうのですよ。

脳イキとは、脳だけでイってしまう状態のこと。

体での快感をはるかに超えた脳イキ状態は、涙や鼻水、涎を垂らしながら情けない声まであげてしまいます。

つまり私のザーメンを注がれた瞬間あなたの体全て……いえ、その脳までもが性感帯となり、この大悪魔専用チンポ穴へと馴染められてしまうのです。

もはや私のチンポのことしか考えられず、チンポをハメられればイキ狂う。

そんな可愛いメスイキオナホールへとあなたは変化してしまいます。

ふ……。さあ、後戻りするならこれが最後。

男としての尊厳、そしてその人生全てを捨ててでも私専用メスイキオナホールになりたいですか？

なりたいのなら、懇願してみなさい。

どうか、大悪魔様専用メスイキオナホールにさせてください、と。

さあ、私の言葉の後に続いて復唱するのです。

どうか、大悪魔様専用メスイキオナホールにさせてください。

……ふふ、言ってしまいましたね。

では望み通り、このアナルに熱々大悪魔ザーメンをたっぷり注ぎ込んで、あなたの存在をメスイキオナホールへと変えてあげましょう。

【6 私専用のメスイキオナホール】

これはあなたがメスイキオナホールへと堕ちる記念すべきセックス。

一生の思い出に残るよう、正常位で種付けプレスをしながら、たっぷり可愛がってあげましょう。

さあ、仰向けになって足を広げなさい。

……ふふ、良い格好ですね。

男性なのに女性のように足を広げて挿入を心待ちにしているその姿……もうすっかりメス堕ちしているように見えます。

しかし本当のメス堕ちはここから……この大悪魔チンポであなたのアナルを犯し前立腺を責めたて、その果てに熱々の煮たったザーメンを流し込んだ時こそ、あなたは真のメス堕ちを体験するのです。

さあ、今度は奥までチンポを入れますよ。

んっ、んくっ、うふう……あああ、入っていきます。

いやらしいアナルマンコにふたなりチンポが飲みこまれていって……んふうっ！

ふふっ、奥まで入ってしまいましたね。

うふ、このままあなたの体にのしかかるようにすれば……んん。

……はい、あなたの意思では脱出できない、種付けプレスの体勢が完成です。

あなたに出来ることは、アナルをチンポでかき回されて可愛く喘ぐことだけ。

このまま欲求不満ザーメンを全て注ぎ込むまで、絶対に開放しませんからね。

覚悟してください。

あふっ、んふうっ、んんっ、あはあ……まずはゆっくり腰を動かして奥の方を小突いてあげます。

んっ、んんっ、んふうっ、うっ、んんんっ……。

んはあ……はあ、ああっ、んっ、ん、んうっ……！

突けば突くほどケツ穴がぎゅっと締まって、腸ひだがうねってきます。

んっ、んんっ、んはあ、あああ、とても気持ちいいアナルですよ。褒めてあげます。

女性のオマンコよりもチンポを気持ちよくできるこのアナルは、んっ、ケツマンコと呼ぶべきでしょうか。

あはあ、ああん、あなたのケツマンコ、とても具合がいいですよ。

んふ、んふう、ああ、ああ……いやらしいケツマンコがいきなりぎゅっと締まりました。

自分のアナルをケツマンコと呼ばれて、羞恥を感じているのですか？

うふふ、本当のことなのですから、そんなに恥ずかしがらなくてもいいでしょうに。

あなたのケツマンコは、女性のオマンコなどよりもはるかに気持ちいいですよ。

トロトロにほぐれてる上、オマンコなどよりも強く締め付けてきて、とても立派なケツマンコです。

このような素晴らしいケツマンコは、大悪魔に犯されるためだけに存在しているのです。

このケツマンコはたっぷりとチンポでねぶり倒して、メスイキケツマンコへと塗り替えてあげますから。

チンポで犯されながら、自分のケツマンコが作り変えられている実感をしっかり味わいなさい。

ん、はあ、んふう、んっ……そろそろもっと早く動きたくなってきました。

今から本気で動きますよ？

本格的なピストンで可愛いケツ穴が壊れなければいいのですが……ふふ。覚悟してください。

んっ……ん！ んっ、ん、んはあ、はあ、んっ！ んはあっ、はあっ、あうっ！

んはあ、はあっ、んっ……ん、んはあっ、……っ！

お尻マンコに大悪魔のデカチンポがグサグサ突き刺さってますよっ。

さあ、もっと喘ぎなさい。

ふたなりチンポでケツ穴を犯されて、可愛く鳴くのです。

んうっ、んはあ、はあっ、んっ、んはっ……んっ、っはあ、はあ。

ああっ、ああっ、きつく締め付けるケツマンコをズボズボピストンするの、たまりません。

んくっ、トロトロのケツマンコでふたなりチンポが包み込まれて……んふうっ、ザーメンがじわじわとこみ上げてくるようですっ。

あはあ、あ、あう、んっ、もっとこのケツマンコを味わいたいです。

んっ、こうしてっ、抉るように角度を変えてピストンしてえっ……！ んんっ！

はあっ、あああっ、あああっ……チンポでケツ穴を抉り回すようにピストンするとっ、更に締まってきました。

んっくっ、ふうっ、はあっ……ふふっ、ふふふふっ。

このままチンポピストンでケツマンコを……んっ、ごちゅごちゅハメ犯して、んう、あなたの尻穴の形を私専用塗りに塗り替えてあげますよ。……ん！

奥まで一気に突き上げて……！ んうっ！

次はゆっくりずるずると引き抜いていく……んふっ。

ひねりを加えながらまた奥まで一気に……！ んくうっ、ふうっ、んんっ！

はあ、はあっ、気持ちいいです。

徐々に私専用の形に染め上げられていくスケベなケツマンコで、私の大悪魔チンポも喜んでますよ。

んんっ！ ああっ、チンポ気持ちいいです。

ケツマンコでふたなりチンポが感じます。

ん……っ、んっ、んふう、あはあっ、ああっ……！

欲求不満チンポが、久しぶりのケツマンコハメで喜んでますっ。

んっ、んんっ、あふっ、あっ、ああっ……あなたのメスマンコが気持ちよくて、ふたなりチンポがもうイってしまいそうです。

んはあっ、あああっ！

チンポが射精しそうだと思ったとたんに、ケツマンコが搾り取るように締まってきましたっ。

ご主人様を気持ちよくさせようとケツマンコで奉仕しているのですねっ。

ああっ、なんて愛らしいケツオナホなのでしょうっ。

その献身的奉仕に応えて、たっぷり射精してあげますっ。

このケツ穴にドクドクと粘ついたザーメンを出しますからねっ。

んはああっ、んんっ、んあっ、はあああっ！

……イクうっ、ふたなりチンポイってしまいますっ。

んっ、んん、……んはあ、はあああ、あっ、ああっ、出ますっ！

んはあ、はあっ、大悪魔のチンポから催淫ザーメン出してしまいますっ！

私の熱々ザーメンを受けとめて、ケツマンコでメスイキアクメを迎えなさいっ！

んっ、んんっ！ 出るっ！ ザーメン出るうっ！ あああんんうう〜っ！

あっ、あんっ、あああっ、欲求不満チンポザーメン、びゅるびゅる出てくるっ！

ふううっ、ああああ……、メスイキ用ケツ穴にザーメンを注ぎ込むこの感覚……いったい何年ぶりでしょうか。

くふふふふっ、私のザーメンを受ける感覚はいかがですか？

全身が震えてアクメが止まらないでしょう？

オチンチンから精液がびゅくびゅくと止まらなくて、全身をビクビクと震わせながら脳ごとアクメを繰り返す。

それがメスイキなのです。

メスイキアクメを一度でも味わってしまったら、もう終わり。

その快感を一生忘れられずに、可愛いメスイキオナホールになるしかありません。

んふっ……んんっ、ああっ、まだまだザーメンが出てきますっ。

欲求不満のあまりため込んだ大量ザーメンを、このまま一滴残らずケツマンコに注ぎ込んであげましょう。

いえ、それだけではありません。

ケツマンコにザーメンを注ぎ込みながら、前立腺を刺激してイかせまくってあげます。

さあ、ケツ穴をザーメン漬けにされながら前立腺を責められ、メスイキを何度も繰り返さないっ。

んくっ、んっ、んうっ……前立腺を射精中チンポでグリグリ刺激してえっ……んふふっ。

……イきなさいっ！ ザーメン漬けケツマンコで感じて、メスイキし続けるのですっ！

一生メスイキ状態から戻れないように、前立腺を射精中チンポでズコズコ責めまくりますからねっ！

んくっ、あはあっ、んんっ、うあっ、はあっ、あああっ！ んっ、んっ、んっ、んっ！

ケツマンコから溢れるくらい大悪魔ザーメンを……んっ……ケツマンコ中出しい……んあっ、ああっ！

んはあ、あはあ、ああんっ！ ……んはあ、はあ、はあ。

んはあ……はあ。……ザーメン、出しつくしました。

ふう……さすがの私でも、こんなにたくさん射精しては疲れてしまいますね。

ふふ、しかしその分、今までの中で一番気持ちいい射精でした。

あなたのケツマンコ、大変気持ちよかったですよ。

ご褒美に、頭を撫でて褒めてあげましょう。

はい、頭をなでなで……ふふ、とても満ち足りた顔をしていますね。

メスイキの気持ちよさのあまり涙を流し、ケツ穴を褒められて幸せそうな顔をする今のあなたは……誰が見ても立派なメスイキオナホールです。

ちゃんとメスイキオナホールへとなれた記念に、熱い口づけをしてあげましょう。

さあ、口を開きなさい……あむっ、ちゅ、ちゅるる、んちゅ、ちゅっ。

……ぢゅるる、んう、ぢゅううっ、ちゅっ、ぢゅううっ、ちゅ。

んあっ……ちゅるりるちゅるるっ……ちゅぱっ。

ん、ちゅぱ、ちゅるるる……ちゅば……っ。

はぁ……うふふ、キスをした後のとろけた顔……とても可愛らしい。

ですが、そのような夢心地でいいのですか？

まだ私のチンポはあなたのアナルに入ったままなのですよ。

つまりこうして突き上げると……んっ！

ほら、また簡単にアクメへ導かれるでしょう？

更に乳首をひねりあげると……んんっ、んふうっ。

……鋭くも甘い刺激のあまり、夢心地から覚めてしまいましたね。

さあ、あなたの目も覚めたところで、続きをしましょうか。

……あら、まだ私はたったの一回しか射精していないのに、もう終わった気になっていたのですか？

言っておきますが、本番はここからですよ。

先ほどの射精で、私の欲求不満だったチンポがすっかり発情してしまいました。

んはぁ……タマタマから精液がたくさん生成され、ずっしりと重くなってきているのが分かります。

まだまだあなたのケツマンコに催淫ザーメンを注ぎ込めそうですよ。

私が満足するまでに、あなたはいったい何度メスイキアクメをしてしまうのでしょうか……

うふふ、うふふふふふっ。

【7 私の城へいらっしゃい】

あら、ようやく目が覚めたようですね。

ふふ、見慣れない場所で目を覚まし、呆然としていますね。

ここがどこなのか教えてあげましょう。

ここは魔界にある私の城の一室です。そして、今日からあなたが住むお部屋となります。

順を追って話しましょうか。

あなたのケツマンコの中で一度射精した私は、そのまま続けてあなたを犯し続けました。

何度も何度もそのケツマンコに大悪魔ザーメンを注ぎ込み、あなたは気絶を繰り返しながらメスイキアクメをキめていたのです。

いったい何度あなたのアナルで射精したことでしょうか。

回数は数えていませんが、一晩中犯しつくしたのは間違いありません。

気絶するあなたのケツマンコを犯し、中で射精してメスイキアクメで目を覚まさせ、また気絶するまで犯しつくす。

その繰り返しの果てに、さすがのあなたも絶頂の痙攣が止まらぬまま意識が戻らなくなってしまったので、こうして私の城に連れ帰り介抱してあげたのです。

人間のあなたでは、独力で魔界と人間界の行き来は不可能。

つまりあなたは一生ここで私のメスイキオナホとして過ごすのです。

今の状況は理解できましたか？

……うふふ、正直に言いますと、今の私はすごく機嫌がいいのです。

だって、あんなに犯し続けたメスイキオナホールが、まだこんなに元気なのですから。

常人ならとっくに壊れているところなのに……んふふ、やはり私の目に狂いはなかったようです。

あなたは私のメスイキオナホールとなるべくして生まれてきた可愛いオナホ。

私の自慢の一品ですよ。

あ、いいことを思いつきました。

今からあなたを部下の淫魔たちに見せびらかせてしましましょう。

こんな素晴らしいメスイキオナホールを見れば、淫魔の子たちも更にやる気を出すはずです。

私の可愛いメスイキオナホールを自慢できて、一石二鳥ですね。

さあ、行きますよ……と言いたいところですが。

このまま淫魔の前にあなたを連れていくと、つまみ食いされる危険もありますね。

あなたは私専用のオナホール。私以外の誰にも使わせる気はありません。

……。何か対策をしないと……。ああ、良い手がありました。

あなたが私の物だとはっきり分かるように、私のザーメンでマーキングすればいいのです。

私のザーメンをあなたにぶっかけて匂いをべっとりと染みつかせれば、淫魔たちもあなたに手を出すことは無いでしょう。

うふふ、あなたにザーメンをぶっかけるところを想像しただけで、ふたなりチンポが勃起してしまいました。

昨日あなたを犯してからというもの、私のチンポはすっかり発情してしまったようです。

ああ、チンポがズキズキと疼きます。

もう我慢できません……。早速あなたにザーメンをぶっかけるとしましょう。

んふう……。私自らこのチンポを扱ってオナニーを見せつけてあげますから、あなたはご主人様のオナニーをしっかりと見ていなさい。目を離してはいけませんよ。

それではチンポを扱ってオナニーをしますからね……。

んっ、はあ、はあはあ、あはあ……。んっ。

……。メスイキオナホールの前でオナニーをするなんて……。とても背德的です。

すぐに使えるケツマンコがあるというのに、それを使わずシコシコオナニー……。んふふ、こういうのも悪くはありませんね。

ん、は、ああ……。オナニーのオカズは、昨日のあなたの痴態です。

気絶するあなたのケツマンコを、このチンポで何度も蹂躪したのですよ。

……。気を失って体が弛緩しても、ケツ穴を突き上げるたびにぎゅっと締まってきて、オナホールとしてとても優秀なアナルでした。

んんふっ、んんっ、あの時の締め付けを思い出ただけでチンポが興奮してきました。

締め付けだけではありません。

気絶中でもザーメンを注ぎ込めばすぐに目を覚まし、メスイキアクメをキメてまた気絶する。

あの時の声と姿は私の目と耳、そして心を捕えて離しませんでした。

んふうっ、はんんっ、んう、んはっはあっ、あんっ、んうっ！

昨日のあなたの痴態を想像しただけで、こんなにもチンポが興奮しています。

シコシコ扱くたびに我慢汁が溢れてきて……あぁっ、タマタマからザーメンがせり上がってきます。

それに、今のあなたの表情もたまりません。

気絶している間私に犯されていた時のことを想像して、あなたも興奮しているのでしょうか？
うっとりとしたメスの表情をしてザーメンマーキングを待ちわびる今のあなたの姿も、もちろんオカズにしていますからね。

過去のあなたと今のあなたを同時にオカズにして、私の濃いザーメンを射精してあげますっ……んっ！

……そしてその顔、体、ケツマンコにまで大量ザーメンをぶっかけて、ザーメンマーキングを施すのです。

んうっ、あぁっ！

あぁあぁっ、来ましたっ。

ザーメンがタマタマからこみ上げて来て、もう射精寸前です。

さあ、私のチンポに顔を向けなさい。まずはその可愛い顔にぶっかけてあげます！

んっ、ふううっ、あっ、あぁあぁっ、出るっ！ 大悪魔ザーメン射精しますっ。

んあぁあぁっ！ あぁあぁっ、あぁっ！ 出るうっ！

昨日たくさん射精したのに、まだまだ濃厚ザーメン出てきますっ！

まずはメスイキオナホールの顔にザーメンをぶっかけえっ。

んん、ん……はあっ、あぁっ！

私のドロドロミルクがあなたの顔にいっぱいかかってますっ。

うふふふふふっ、さあ、次はお尻ですっ。

ケツ穴に向かってぶっかけるので、四つん這いになってお尻を向けなさい。

んふっ、いいですよその姿っ。

メスマンコと化したアナルを自分で開いて、ぶっかけ射精を受け入れなさいっ。

んっ、あぁっ、射精中チンポっ、扱けば扱くほどザーメンが出てきますっ。

くふっ、ふっ、うううっ、お尻全体にぶっかけた後は、開いたメスアナルにもザーメンをかけて……あぁ！ そのアナルマンコの中にもしっかりと注ぎ込まないといけませんねっ。

チンポ亀頭だけを挿入して、んっ、残りのザーメンを全部注ぎ込みますよっ。

んっ！ 亀頭をアナルにねじ込んで……んんっ。

あぁっ、温かいケツマンコに向かってザーメンがどびゅどびゅ出ていきますっ。

あぁっ、んうっ、うふうっ、ふうっんんっ！

チンポを扱い最後までアナルに注ぎ込めば……ん、マーキングの完了です。

さて、後はお尻からゆっくりと亀頭を引き抜くだけですな。

んく、あ、はぁっ、あふ、んっ……。

あぁあ、チンポ亀頭がアナルから抜けてしまいました。

あぁ……尻穴からザーメンが零れてきています。

ちゃんとケツマンコを閉めて漏れ出ないようにがんばりなさい。

ふふ……顔も体も、お尻もケツマンコも全部ザーメンまみれ。

いい姿になりましたね。これなら誰がどう見ても私専用のメスイキオナホールです。

では、私のザーメンで体も尻穴もデコレーションされた今の姿を、皆に見てもらいましょうか。

ふふ、たくさんの淫魔たちに見られることにはなりますが、何も不安に思うことはありません。

あなたは私自慢のメスイキオナホール。きっと皆があなたに見惚れるはずです。

さあ、行きましょう。私の可愛いメスイキオナホールさん。